第12回 建コンフォト大賞

あなたのお気に入りの“土木施設”

当協会では、広く一般の方々の土木施設への興味を高め、建設コンサルタントをより知っていただくために、2009（平成21）年度よりフォトコンテスト「建コンフォト大賞」を開催しています。2年振りの開催となった2021（令和3）年度も、「あなたのお気に入りの“土木施設”」をテーマに募集し、397点のご応募をいただきました。

また本年度よりグリーンインフラ官民連携プラットフォーム、企画・広報部会にご協力いただき、「グリーンインフラ特別賞」を新たに設置しました。

当協会ホームページやフォトコンテストに関する情報提供サイトへの掲載、全国の高校写真部へのチラシ配布などで作品を募り、全国の幅広い年齢層の方々に、道路や橋、鉄道、上下水道、空港や港、公園や堤防など、私たちの日常生活を支える土木施設のある風景の写真を撮影していただきました。

審査方法

ご応募いただいた作品は、審査委員（5名）による審査会にて審査しました。

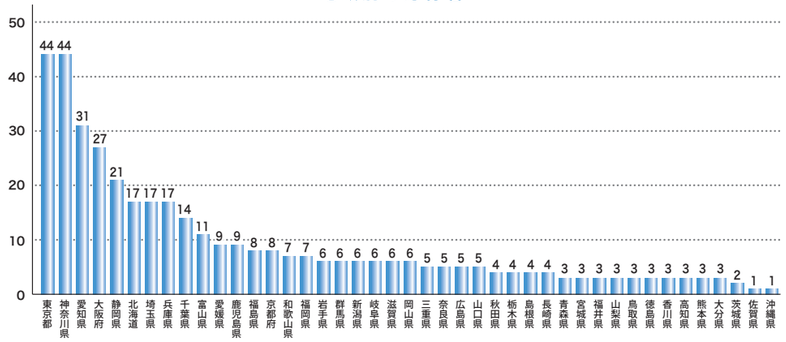
審査委員

審査委員長　宇於﨑 勝也　（日本大学教授）
知野 泰明　（日本大学准教授）
八馬　智　（千葉工業大学教授）
初芝 成應　（日本写真作家協会員）
重永 智之　（建設コンサルタンツ協会広報戦略委員長）

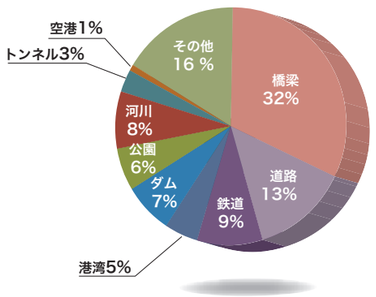
審査結果

最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞10点、グリーンインフラ特別賞2点を決定しました。
入賞作品と講評は次ページ以降に掲載します。

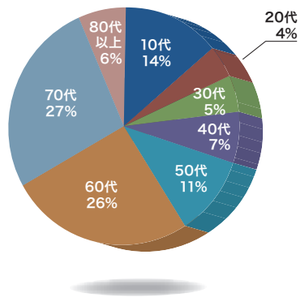
地域別の応募者



写真撮影の対象



応募者の年代



最優秀賞

「山なみに書かれた楽譜」

愛知県　林　拓巳

（撮影地：愛知県北設楽郡豊根村）

[撮影者のコメント]

夏の早朝に、愛知県の最高峰の茶臼山（ちゃうすやま）に登る前に撮影しました。日の出後、一面に雲海が広がり、山なみに建っている送電用の鉄塔が楽譜のように見えました。そこから山に響く静かなメロディーが聞こえてくるようで、山深い場所にこれだけの鉄塔を建てられた人々の苦労が伝わってきました。

講　評

画面全体がブルーのグラデーションで構成された絵画のような風景の中に、一筋の送電線を見出し、それを譜面に見立てた絵画的・文学的な作品。美しさが際立っている。（宇於﨑審査委員長）

山紺雲絹とでも云えようか。東山魁夷（ひがしやまかいい）の吐息が聞えてきそうな風景です。それが土木の造形とともに写し留められたとは驚きです。更には送電の鉄塔が山峰（やまお）と一体となった神秘的な構図に頭が下がる思いです。（知野審査委員）

複雑に揺らぐ地形がしっとりとした湿度感を伴って、遠景の青いグラデーションにより濃密に表現されている。柔らかな動きを伴う送電線が画面の中央に通り、その繊細な情景が見事に強調されている。極めて印象深い写真に仕上げられています。（八馬審査委員）

幾重にも重なる山脈（やまな）みの雲海を捉えた作品は、壮大な景観を静かに奏でている。遠方に建つ無くてはならない4本の送電用鉄塔が、険しい山間を繋ぎ、作品全体の構図を引き締めている。（初芝審査委員）

遠近の山の端と霞む雲海を、濃紺から薄青の色調によりグラデーションで切り取ったこの作品は、寒色系の作品にもかかわらず、心に安心感や安らぎを感じさせてくれる。中段の人工物が楽譜のようなリズム感を与えつつ、地域を繋ぐインフラの大切さを印象付けている。（重永審査委員）

優秀賞

「皐月色の名港トリトン」

滋賀県　**福田　尚人**

（撮影地：愛知県海部郡飛島村）

［撮影者のコメント］

名港トリトンは、名古屋港を横切るE1A伊勢湾岸自動車道の「東海IC～飛島IC」間にある3つの橋の愛称です。
3橋でいちばん西側にある名港西大橋は、橋長758m、中央径間405m、塔高127mで橋全体を見渡せるビューポイントもあります。
夕景から夜景に変わる時間帯にはライトアップも行われ、赤色のA型主塔や若葉をイメージした春色の橋桁が夜空に映えます。

講　評

伊勢湾岸自動車道の名港トリトンと名づけられた3橋。その主塔は色分けされ、皐月（さつき）色の名港西大橋は、ライトアップによってさらに色鮮やかに輝いている。宇宙に向けたカタパルトのようにも見える近未来的な光景が美しい。（宇於﨑審査委員長）

造形美と色彩美。どちらも秀でたこの作品に土木の近未来を感じる様に思います。（知野審査委員）

特徴的な赤いA型主塔をもつ斜張橋を、豊かな色調で表現した夜景写真。ライトアップによる光をよく捉えており、橋の存在が港の中で引き立っている様子が伝わってきます。（八馬審査委員）

夜景撮影での天候は晴れでなければ、本来の光の織りなす美しさは表現できない。この作品は撮影条件を見事なまでに満たしており、穏やかな凪で海の穏やかさを明かるくなり過ぎない適切な絞りで撮影された美しい作品である。（初芝審査委員）

ライトアップされた白い橋桁と赤い橋脚が夜の名古屋港に浮かぶ巨大な姿をバランスよく美しく捉えた作品である。周囲を圧倒する存在感でありながらも、重厚さを感じさせない機能美をもって見事に切り取っている。（重永審査委員）

優秀賞

「帰り道にえらいもんが建った」

京都府　**舟山　周**

（撮影地：京都府綴喜郡宇治田原町）

［撮影者のコメント］

なにもなかった田舎道に高速道路の橋脚が建ちました。その巨大さは衝撃的です。かっこいい。

講　評

新名神高速道路の建設によって出現した圧倒的に巨大な構造物と、それに驚く少年の姿の対比がよく捉えられている。それまでの田園風景の通学路を一変させた土木施設の特徴がよく表わされている。（宇於﨑審査委員長）

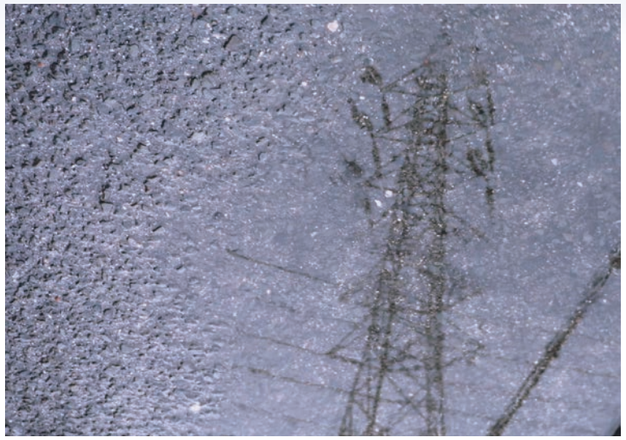
完成前の土木構造物が後姿の男性に何かを語りかけているかのようです。多くのストーリーを想起させる1シーンとなりました。（知野審査委員）

突如として風景の中に差し込まれた、施工中のコンクリート橋の橋脚。直線の道を帰宅する少年の背中が、時間の流れを想起させるように、とても印象的に描かれています。いずれは新たな橋梁の風景が、彼の日常に溶け込んでいくでしょう。（八馬審査委員）

眼前の施工中の高速道路の橋脚を見上げている小学生の後姿が印象的である。如何にも力強く巨大さがうかがえ、レンズ一杯に画面を大きく使い、小学生が一人歩く姿は施工中とはいえ橋脚の巨大な完成姿を彷彿させる。（初芝審査委員）

土木現場を身近に発見した時、多くの人が感じる感情を、うまく作品およびタイトルに表している。少年は大人になったらこの道を使って遠くへ旅立つことを想像しているのであろうか、このような大きなものを自分も作りたいと思ったのであろうか。（重永審査委員）

特別賞



「雨にも負けず」
大阪府　堀江 友輝
（撮影地：大阪府大阪市）

[撮影者のコメント]
電線の鉄塔は、どのような天候であってもシャキッと立ち続けていないといけません。
まるでそう言っているかのようです。

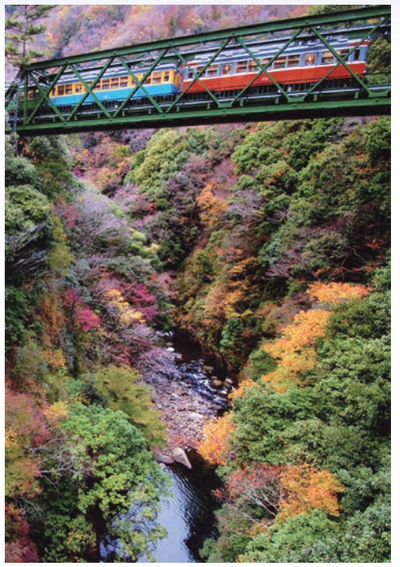
講　評
アスファルトの上の水たまりに反射した送電鉄塔。普段は見過ごされがちな日常の中にある土木の構成要素が、とても詩的な情景として見事に切り取られています。

「天空に架ける橋」
兵庫県　玉井 勝典
（撮影地：兵庫県神戸市）

[撮影者のコメント]
空気が澄み渡って星が良く見える、夜釣りの釣り人が激減する真冬の2月を待ち望み、大橋のライトアップが終わり、星空を遮る光が無い深夜0時を過ぎるのを待って撮影しました。当日は良く晴れて、飛行機もこの時間帯は一機だけしか飛ばなかったので、素晴らしい星の軌跡と明石海峡大橋のコラボが撮影できました。写し終わった写真をひっくり返して見るとまるで天空に架かった橋の様に見えました（天橋立の股覗きの原理と同じですね！！）。

講　評
群青の海と夜空と星の軌跡の中を、緑の橋が繋ぐ様は、まさに天空に橋を架けたかのようだ。静かな水面に光る赤・白の光の帯も作品をうまく引き締めている。

特別賞



「紅葉に彩られた鉄橋」
神奈川県　小澤 宏
（撮影地：神奈川県足柄下郡箱根町）

[撮影者のコメント]
秋深まる早川の渓谷にかかる出山（しゅつざん）の鉄橋が、紅葉に彩られ素晴らしい光景でした。近くにありながら、今回が初めての撮影であり、貴重な文化遺産を1度撮ってみたいとの念願がやっと叶いました。

講　評
箱根登山鉄道の早川橋梁（出山の鉄橋）は紅葉スポットとして有名であるが、色とりどりの樹木と緑の鉄橋、青と赤の車両の一瞬を捉えて画面の中でうまくバランスしている。色彩豊かで秋を感じさせる作品。

「夕陽の幻想」
群馬県　関矢 俊夫
（撮影地：東京都港区）

[撮影者のコメント]
イベント広場を木の枠で庭園を作り岩場の間から蒸気がでて、幻想的な雰囲気であった。

講　評
蒸気の放出は暑熱緩和にも繋がることから、機能面でも意味があります。まちなかで自然の幻想さを感じられる一瞬をよく捉えています。

特別賞

「夜明けの虹に起こされた」

神奈川県　**野村　成次**

（撮影地：神奈川県川崎市）

［撮影者のコメント］

毎朝ほど歩いている多摩川土手の水門。この日は夜明けに見事な虹が輝いた。普段はヒマそうな水門が忙しく動く時は大変な時だ。我が家は、この近く。どうぞ、これからもお守り下さい。

講　評

災害時に重要な役割を持つ水門と未だ覚めやらぬ早朝の平和のシンボルである大きな虹。土手を散歩する男性の、災害の無い日が続く事を祈らずにいられないという安堵の心を満たす構図が、美しい朝焼けとともに伝わってくる作品です。

「道標」

高知県　**石川　賢一**

（撮影地：高知県室戸市）

［撮影者のコメント］

直径2.6mの第1等フレネル式レンズを備えた第1等灯台。光達距離26.5海里は日本一。海の安全を守って今年で122年になります。こちらの方面へ撮影に出かける時は、よく立ち寄るお気に入りの場所です。年に一度の灯台内部一般公開の日に撮影させていただきました。日没後の残照が水平線を茜色（あかねいろ）に彩っています。

講　評

巨大な一つ目小僧が夕闇を照らし始めます。長年、暴風雨に立ち向かってきた貫禄を感じます。その中に抱かれた人々の姿がユニークなストーリーを醸し出します。

特別賞

「ダムの子」

大阪府　**山根　淳市**

（撮影地：滋賀県甲賀市）

［撮影者のコメント］

放水のないダム公園でのファミリーの休日。ダムの子は元気に釣りを楽しんでいる。

講　評

「ダム神殿の前に立つ人々」と題してもきっと許されるのではないでしょうか。穏やかな日差しと人々、その舞台と背景になった巨大な土木構造物。緊急時の猛威に耐え得る威厳が、このシーンの根底にあるものと感じました。

「お買い物日和」

京都府　**田中　雅之**

（撮影地：京都府八幡市）

［撮影者のコメント］

川を挟んで往来する生活に密着した橋ですが、台風などで増水すると橋を守るため橋板が流れるような構造です。しかし一旦流されると復旧に時間がかかるため、近隣住人の生活に支障をきたしてしまうのですが、現在では橋板が外れても流れて行ってしまわぬよう、数ブロックごとにワイヤーで繋げられているようです。橋の普段の姿、また災害時の姿、どちらも目の当たりにしているので、橋桁から外れた橋板を短期間で現状復旧した時などは、まさにSDGs、再生可能な橋だと思いました。

講　評

八幡市の上津屋橋は、近所の人々にとって日常生活に欠かせない「みち」となっている。青い空、白い雲、土木施設を対象としながら、強い日差しを感じさせる印象深い作品となっている。

特別賞

「夏の思い出」
山口県　村田 利子
（撮影地：山口県下関市）

［撮影者のコメント］
例年でしたら、この橋の下から蛍舟が出る場所ですので、撮影は不可能ですが蛍舟中止となり蛍の乱舞と趣のある橋とのコラボとなりました。貴重な撮影のひとコマとなりました。

講　評
夕闇迫る初夏の河畔に蛍が静かに乱舞している。少し古びた橋が、いまでは探さなければ見られない風景かもしれない、ということを思い起こさせる。

「匠たちに守られて！」
愛媛県　末光 則夫
（撮影地：愛媛県今治市）

［撮影者のコメント］
大三島橋で保守整備をしている作業員（匠たち）に守られて、今日も安心して通行でき気持ちよく走り抜け、サイクリングを楽しんでいます。

講　評
一見歩道橋を思わせる程余裕を持つ橋欄干（らんかん）上に、整備点検の通行幅のある橋は余り見かけない。この作品は見た人に何故か安心感をもたらすのは、引き立て役の点検に向かう6人の匠たちであろう。

［入賞作品マップ］

グリーンインフラ特別賞

趣旨・目的

成熟社会を迎えた我が国では、経済成長だけではなく、自然豊かで良好な環境で健康に暮らすことができる社会を求める価値観の劇的な変化が起きています。これからの時代、人が自然とより良く関わることのできる緑と水の豊かな生活空間を形成することが、さらに求められていくと考えます。

一方で、気候変動に伴う自然災害の頻発・激甚化、人口減少・少子高齢化の進展に伴う管理放棄地など様々な課題への対応が必要となっています。

「グリーンインフラ」とは、自然環境の持つ多様な機能を賢く利用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組みであり、地域が抱える様々な課題への対応策の一として国土形成計画（国土交通省）等に盛り込まれた取組みです。また、グリーンインフラの推進は、SDGsの目標達成にも貢献するものと期待されています。

そこで、より多くの人々にグリーンインフラの取組みを知ってもらい、取組みの社会的普及を目的として、「グリーンインフラ特別賞」を設置することにいたしました。

なお、本賞の選定にあたっては、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム、企画・広報部会にご協力を頂きました。

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

グリーンインフラ官民連携プラットフォームは、多様な主体の積極的な参画及び官民連携により、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用したグリーンインフラを推進し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりにつなげることを目的に、令和2年3月19日に設立されました。

グリーンインフラ特別賞

「先人の知恵を受け継ぐ」
福島県　石森 文夫
（撮影地：福島県福島市）

［撮影者のコメント］
福島市の暴れ川、荒川の霞堤（かすみてい）と呼ばれる不連続な堤防や水防林（すいぼうりん）は、洪水の水の勢いを弱めて、河岸の侵食や農地の流失を防ぐ等、江戸時代から先人達が苦労して維持してきたもので、水との戦いの足跡が残されています。砂防堰堤（えんてい）群と共に、「選奨土木遺産」に認定されました。

講　評
湿り気のある静かな森の中で、苔むした丸石積みが連なっている。どんな先人の知恵が隠されているのかは、よく観察するとわかるかもしれません。

「Natural Slider」
岡山県　藤元 麻未
（撮影地：岡山県総社市）

［撮影者のコメント］
ここは公園にあるウォータースライダーなのですが、川の水を利用しているので自由に滑ることができます。
夏に子供たちを連れてくると大喜び！！
毎年みんなでワイワイ滑ってかなり楽しくお気に入りの場所です。

講　評
見慣れない構図に見慣れない川の様子。写真に惹きつけられ、これは何だろうと調べます。何気ない自然を賢く使って、川と人をより近づきやすくした遊び場。小さな子供達の生き生きとした様子が伝わります。

第8回 建コン フォト大賞Jr.

“土木施設”を探せ！

当協会では、フォトコンテストを通して中学生・高校生の皆様に土木施設の重要性と建設コンサルタントについて知っていただくために、2013（平成25）年度よりフォトコンテスト「建コンフォト大賞Jr.」を開催しています。

2年振りの開催となった2021（令和3）年度（第8回）も『“土木施設”を探せ！』をテーマに募集を行い、110名の中学生・高校生から応募をいただきました。

厳正な審査の結果、ジュニア最優秀賞1点、ジュニア優秀賞2点、ジュニア特別賞10点を選定しましたので、その作品を紹介します。

ジュニア最優秀賞

「天窓のある素掘りトンネル」

千葉県　**水野　世空**

開智中学・高等学校

（撮影地：千葉県市原市）

ジュニア優秀賞

「宵のターミナル」

愛知県　**村松　尚都**

愛知県立津島東高等学校

（撮影地：愛知県名古屋市）

「夕暮れ時の伊良部大橋」

沖縄県　**佐藤　茉陽夏**

宮古島市立北中学校

（撮影地：沖縄県宮古島市）

ジュニア特別賞

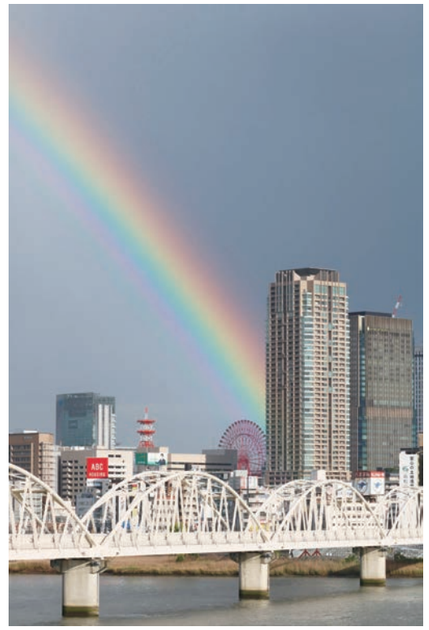
「栄光の懸橋」
大阪府　**苔口 陽汐**
常翔学園高等学校
（撮影地：大阪府大阪市）

「晩秋の奥秩父」
埼玉県　**堀口 一真**
埼玉県立妻沼高等学校
（撮影地：埼玉県秩父市）

「川のせせらぎに」
神奈川県　**酒井 道崇**
（撮影地：東京都町田市）

ジュニア特別賞

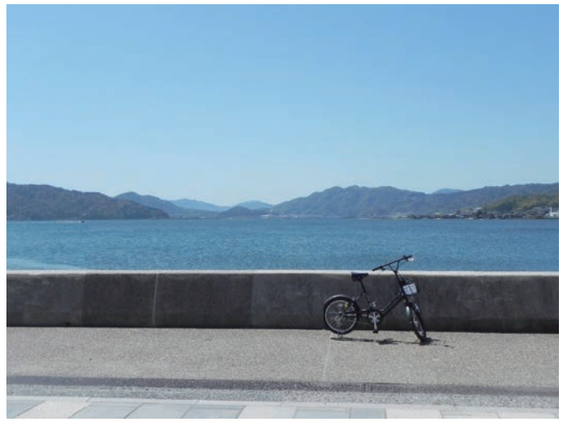
「波の綾」
北海道　**奈良木 健人**
北海道札幌啓成高等学校
（撮影地：広島県広島市）



「向こう岸には」
大阪府　**山岡 響**
常翔学園高等学校
（撮影地：大阪府大阪市）

ジュニア特別賞

「渡った先に」
東京都　**山岡 康洋**
東京都立橘高等学校
（撮影地：東京都葛飾区）

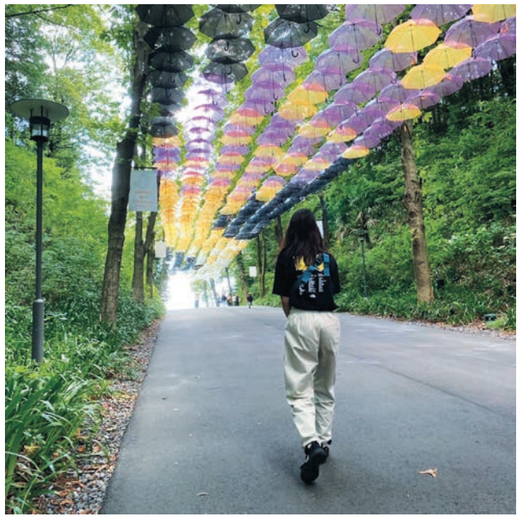


「2021 夏の一人旅」
兵庫県　**細矢 朋希**
追手門学院大手前高等学校
（撮影地：京都府宮津市）

「古き河川にて」
兵庫県　**田中 晴希**
追手門学院大手前中学校
（撮影地：京都府京都市）

ジュニア特別賞

「panorama」
大阪府　**志摩 佳音**
大阪府立富田林高等学校
（撮影地：大阪府大阪市）



「カラフル」
埼玉県　**平田 梨里子**
東京女子学院高等学校
（撮影地：埼玉県飯能市）